

将来推計と予測

公表されているデータを基に、令和12年（2030年）の本県の人口、経済活動などを推計しました。

*様々な仮定や条件設定をしておりますので、推計結果はある程度幅を持った数値であることに御注意ください。

人口の将来推計

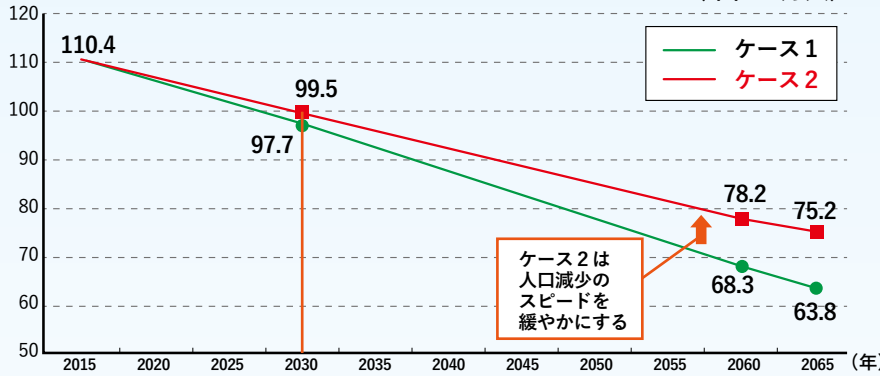
ケース1 出生や死亡、社会増減が現状の傾向のまま推移した場合

ケース2 合計特殊出生率*が2030年代までに2.07に改善し、社会減が解消したと仮定した場合

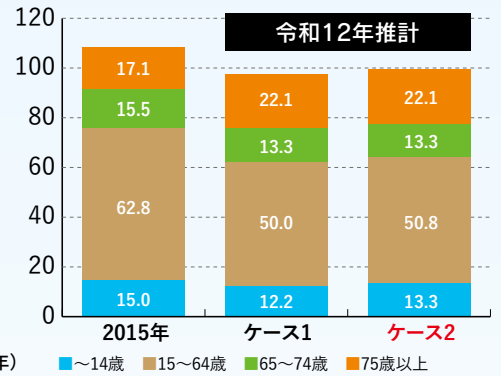
※15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が一生の間に何人子どもを生むかを推計したものの。

[人口推計]

(単位：万人)



(単位：万人)



令和12年には、いずれのケースも約2.8人に1人が高齢者になる見込みなんだ。
2つのケースで大きな違いはなさそうだけど、**ケース2**を達成すれば、人口減少のスピードが緩やかになって、将来的な人口減少の収束につながると期待されているんだよ。



就業人口・生産活動・県民所得の将来推計

ケース1 就業率や1人あたりの生産額、生産額に対する県民所得の割合が現状のまま推移した場合

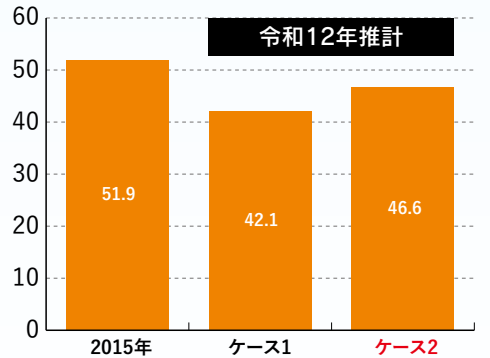
ケース2 非就業者の経済活動への参加が進み、経済活動の生産性が向上した場合（60歳代の就業率：約70%、若年層・中年層の失業者の減、生産性10%向上）

※人口動態は、上の「人口推計」のケースと同様。

	2015年	2030年推計 (2015年との差)	
		ケース1	ケース2
人口 (万人)	110.4	97.7 (△12.7)	99.5 (△10.9)
就業人口 (万人)	51.9	42.1 (△9.8)	46.6 (△5.3)
域内総生産 (億円)	36,339	29,452 (△6,887)	35,846 (△493)
1人当たり所得 (万円)	231	212 (△19)	253 (+22)

[就業人口推計]

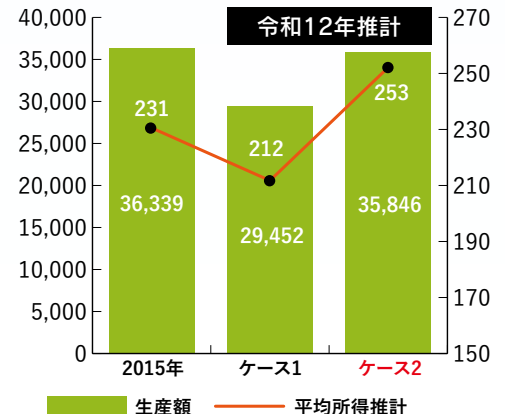
(単位：万人)



[生産額と平均所得推計]

(単位：億円)

(単位：万円)



ケース2を目指してみんなで
取り組んでいく必要があるね！